

令和 8 年度 歴史総合+世界史探究 (01コア・03プラス・05プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題16ページです。別に、マークによる解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 、記述による解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ 各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ ・ $\boxed{\text{記述}}$ をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	0	0	0
1	①	①	①	①
2	②	②	②	②
3	③	③	●	③
4	④	④	④	④
5	⑤	⑤	⑤	⑤
6	⑥	●	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	●
8	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	⑨	⑨

01コア・03プラス・05プラス

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号				
	千位	百位	十位	一位
0	0	0	0	0
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9

I A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II A

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

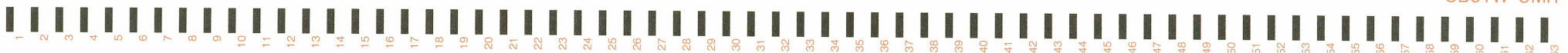
I B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

II B

	①	②	③	④
(1)	①	②	③	④
(2)	①	②	③	④
(3)	①	②	③	④
(4)	①	②	③	④
(5)	①	②	③	④
(6)	①	②	③	④
(7)	①	②	③	④
(8)	①	②	③	④
(9)	①	②	③	④
(10)	①	②	③	④

CB01W-OMR



Ⅲ

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

(6)		
(7)	a	
	b	
(8)		

総 点	
--------	--

評 点	
--------	--

Ⅳ

	A (誤)	B (正)
1		
2		
3		
4		

	設問
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

評 点	
--------	--

Ⅴ

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	

(8)	
(9)	
(10)	
(11)	
(12)	
(13)	

評 点	
--------	--

I 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙~~マーク~~〕(20点)

A オリентとは、ヨーロッパから見て東方の「太陽の出るところ」を指す言葉であり、古代文明の栄えた西アジアとエジプトを指すことが多い。特にティグリスとユーフラテス川の2大河流域のメソポタミアからシリア・パレスチナに至る地域は、「肥沃な三日月地帯」と呼ばれ、世界最古の定住農業が始まった地域と考えられている。オリентは、雨が少なく乾燥して高温の地であるが、前3000年ごろからメソポタミアとナイル川流域のエジプトでは、灌漑農業に基づく高度な文明が形成された。

メソポタミアでは、民族系統が不明のシュメール人によって、ウル・ウルク・ラガシュなどの都市国家が形成された。都市国家の中心となる都市は、強固な城壁で囲まれ、守護神を祀る神殿が建設され、王や神官などの支配階層と農民や職人、さらに奴隷などの被支配階層が分化した階級社会を形成していた。シュメール人たちは、空の星々の運行から人間社会の出来事を予測・説明する占星術のために天体観測を行い、そこから月の満ち欠けを基準とする太陰暦やそれを改良した太陰太陽暦を用いた。またシュメール人は(1)〔①絵文字 ②楔形文字 ③神聖文字 ④線文字〕を考案した。この(1)は、粘土板に尖筆で刻まれる形で古代オリентの諸民族の間で長年にわたって広く用いられることとなった。世界最古の文学作品と言われ、ウルクの王とされる(2)〔①アエネアス ②アキレウス ③オデュッセウス ④ギルガメシュ〕の冒険を描いた叙事詩も、粘土板に(1)で記されたものであった。

前24世紀には、シュメール人地域の北方に定住していた(3)〔①チャド ②インド＝イラン ③エジプト ④セム〕語派のアッカド人が、メソポタミア最初の統一王朝を築いた。その後、シュメール人によってウル第3王朝が建てられてメソポタミア全域を支配した。この王朝初代のウル＝ナンム王による法典が発見されており、現存する世界最古の法典とされる。前19世紀には、(3)語派のアムル人によってバビロン第1王朝が建てられた。この王朝第6代の王(4)〔①アッ

シュルパニパル ②クフ ③ダヴィデ ④ハンムラビ〕による「目には目を，歯には歯を」という「同害復讐」の原則に基づく処罰を定めた法典が発見されている。この王朝は，前16世紀初めに，滅亡した。

一方，ナイル川流域の古代エジプトでは，ギリシア人の歴史家 (5)〔①トゥキディデス ②プルタルコス ③ヘロドトス ④ポリュビオス〕の「エジプトはナイルのたまもの」との言葉に示されるように，ナイル川の定期的増水でもたらされる肥沃な土壌を利用して農耕が行われていた。前3000年ごろに，多くの小地域国家が統合されてナイル河谷の上エジプトとナイル川のデルタ地帯の下エジプトの2王国にまとめられ，さらに上エジプトが下エジプトを征服する形で統一王朝が成立した。その後，エジプトでは多くの王朝が興亡を繰り返すこととなった。それらのうち，第3王朝から第20王朝までの時代は，古王国・中王国・新王国に区分され，エジプトが繁栄した時代であった。エジプトの王である (6)〔①アメン ②オシリス ③ファラオ ④イシス〕は神の化身として強大な権力者であった。古王国時代の (6) たちは，恐らく自分たちの墓として巨大な石造建築物であるピラミッドを建設させた。中王国時代末期には，シリア・パレスチナ地方から複数の民族の混成集団と考えられる (7)〔①アラム ②ヒクソス ③ヘブライ ④ヌビア〕が馬に曳かせる戦車を駆使して進出し，約1世紀あまりの間エジプトを支配したが，上エジプトの (8)〔①アマルナ ②ガザ ③テーベ ④メンフィス〕を首都とする第17王朝が (7) からナイルデルタ地帯を奪い返し，第18王朝として新王国時代を開始した。新王国エジプトの第18王朝は，前16世紀には (7) を追ってシリア方面に進出を開始した。当時，シリアには，メソポタミア北部を本拠地とする (9)〔①リディア ②新バビロニア ③ミタンニ ④メディア〕王国が勢力を伸ばしており，第18王朝と衝突を繰り返していた。ところが，オリエント北方のアナトリア（小アジア）を本拠地とするインド・ヨーロッパ語系の (10)〔①アルメニア ②ゲルマン ③ヒッタイト ④メディア〕が南下してシリアに勢力を伸ばし，第19王朝のラメス2世とシリアのカデシュで戦った。この戦いの後には，現存する世界最古の国家間条約が結ばれたことが知られている。

B 「啓蒙」という言葉がある。ドイツ語のAufklärung, 英語のenlightenmentがこのように訳される。人々を無知や迷信から解放し、理性や知識に基づいた考え方ができるように導くことを指す。理性が大事なのである。理性を絶対視し、理性という光で従来の慣習を批判していく合理的な思想を啓蒙思想と言う。いわゆる近代化の思想である。17世紀イギリスのロックに萌芽が見られ、特にフランスで広がった。フランスの啓蒙思想家というと、ヴェルサイユ宮殿に出入りし、プロイセンの(1)〔①カール4世 ②フリードリヒ2世 ③ヴィルヘルム1世 ④ヴィルヘルム2世〕に招かれてサンソーシ宮殿で過ごし、ロシアの(2)〔①エカチェリーナ2世 ②マリア=テレジア ③ピョートル1世 ④アブデュルメジト1世〕と文通するなどして各国のその時代の君主に影響を与えたヴォルテールや、フランス革命に多大な影響を与えたルソー、そして啓蒙思想にもとづく百科事典である『百科全書』を編纂したディドロと(3)〔①グランベール ②フーリエ ③コント ④モリエール〕がいる。他方で、プロイセンの(1)や、ロシアの(2)や、(4)〔①オーストリア ②スペイン ③スウェーデン ④デンマーク〕のヨーゼフ2世は、啓蒙専制君主と言われ、上からの近代化を行った。

しかし、フランスにおいても、ナポレオンは、フランス革命で噴出した自由・平等・合理主義を制度化した点では啓蒙専制君主の系譜に繋がると言えるかもしれない。そんなナポレオンがプロイセンとの闘いに勝利し、イエナの町に入城してきたところを見た哲学者(5)〔①ヘーゲル ②ライプニッツ ③カント ④ニーチェ〕は、ナポレオンを世界精神になぞらえたという。(5)は世界を世界精神の弁証法による自己展開の過程と捉えたわけだが、つまりは、ものすごく簡単に言ってしまうと、世の中は、理性や思考の力で時代を経るにしたがってどんどん良くなっていくと考えたわけだ。

19世紀以降も、理性を重視する合理主義の考え方はヨーロッパで強い影響を持ち続けた。工業化や都市化が進んでいった。そして、20世紀に入り、大量破壊兵器も使われてしまった二つの世界大戦も経て世の中はどうなっていたのだろうか。

1970年代以降、公害をはじめとする環境破壊が深刻になり、進歩を際限なく続けていくことが本当に良いことなのか、合理主義自体に反省の目が向けられるよ

うになっていった。理性や進歩といった概念が相対的な価値を持つにすぎないとする(6)〔①ポスト＝モダニズム ②ヒューマニズム ③実存主義 ④ダダイズム〕の台頭である。啓蒙思想以降の近代が信じてきた理性や進歩、普遍性といった「大きな物語」を疑うわけだ。ただ、それも理性による反省とは言えないだろうか。

ともあれ、大きく問題なのは世界の人口は増え続けているということだ。すでに1974年の国連の世界人口会議で、人口爆発という呼称が用いられたが、20世紀初めに16億人程度であったとされる地球の人口は、2022年には80億人を超えた。健全な人間生活のために、適切な人口を考えなくては行けないし、地球環境を守らなければならない。すでに1987年には「国連環境と開発に関する世界委員会」で「持続可能な開発」というスローガンが表され、1992年には(7)〔①リオデジャネイロ ②ブラジリア ③ブエノスアイレス ④ジュネーブ〕で開かれた「環境と開発に関する国連会議」では172か国が参加し、環境保全の原則が示された。1994年には温室効果ガスの排出量削減に関する「気候変動枠組み条約」が発効された。その条約の第3回締約国会議が京都で開かれたが、そこでの議定書には温室効果ガスの大量排出国であるアメリカは批准しなかった。その後、2015年に(8)〔①ロンドン ②パリ ③スイス ④カラカス〕で開かれた第21回締約国会議で採択された協定は翌年に発効され、最初はアメリカも批准したが、2017年にトランプ大統領が脱退を表明、2021年に(9)〔①オバマ ②レーガン ③バイデン ④クリントン〕大統領が復帰を表明、そしてまた2025年にトランプ大統領が脱退を表明している。

また、2015年の国連サミットでは、「持続可能な開発目標(SDGs)」という17の目標が、「(10)〔①かけがえのない地球 ②二度と戦争を繰り返さない ③誰一人取り残さない ④平和のうちに開発を〕」を合言葉に、2030年までの貧困の克服のための経済成長と環境保護の両立を目指している。間に合うかどうかはおいておいて、これもまた人間の理性の働きと言えるのではないだろうか。

Ⅱ 次のA・Bの文章を読み、それぞれ(1)～(10)の設問について〔 〕内の語句から最も適切と思われるものを選び、その記号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

A 神聖ローマ帝国がいつ成立したか、というのは、専門家の間でも確定が困難な面がある。962年、(1)〔①メルセン ②メロヴィング ③カペー ④ザクセン〕家のオットー1世はローマで戴冠したが、この段階での戴冠は、(2)〔①西ゴート ②東フランク ③ヴァンダル ④西フランク〕王国の王であったオットー1世がローマ皇帝の位を名誉称号のように兼ねたに過ぎないと評価されている。ただし、皇帝の位というものは、古代ローマ帝国以降も消滅することはなく、一時的な空位期間があっても継承されるものと考えられていたので、再び皇帝が現れるということは全く奇異なことではなかった。

その後、ドイツ王に選ばれた者が皇帝を兼ねるという慣習が生まれることになる。皇帝ハインリヒ4世と教皇(3)〔①グレゴリウス1世 ②グレゴリウス7世 ③インノケンティウス3世 ④ボニファティウス8世〕との間で叙任権闘争が展開した過程の中で、「ドイツ王国」という呼称が与えられる一方で、帝国としての統治領域は、ドイツに加え、ブルグント、イタリアの両王国にも及ぶべきであると定められた。

中世固有のこうしたローマ帝国に実体を与えたのは、(4)〔①シュタウフェン ②ホーエンツォレルン ③ハプスブルク ④ヤゲウォ〕朝の時代である。この頃、中世最古の大学の一つといわれる(5)〔①ジェノヴァ ②ヴェネツィア ③フィレンツェ ④ボローニャ〕大学において、ローマ法の研究が進展していた。

(4) 朝の皇帝フリードリヒ1世の宮廷では、ローマ法の理念に立脚する新たな皇帝理念が構想され、皇帝の位は、神から授けられるものであるという考えに至った。この時の皇帝理念は、皇帝の正統性は古代的伝統に由来すると考えるもので、教皇による皇帝への加冠という行為を軽視し、教皇権を弱めようとするものであったが、フリードリヒ1世の政策には、キリスト教理念に結びついたものも多く、(6)〔①クローヴィス ②ユーグ＝カペー ③カール＝マルテル ④ピピン〕の息子であるカール大帝の列聖や東方の三博士の聖遺物収集に尽力した。聖

人の存在は帝国に神聖性を与えるものであり、神聖なる皇帝が神聖なる帝国を統治すべきという考えである。こうした考えに基づき、フリードリヒ1世は、自身の発給した国王証書において、初めてローマ帝国に「神聖」という形容辞を付したことで知られる。またフリードリヒ1世のキリスト教理念は、彼が(7)〔①第1回 ②第2回 ③第3回 ④第4回〕十字軍に参戦したことにも表れている。皇帝としてのフリードリヒ1世の行動は、イタリア支配への執着にも表れている。彼は北イタリアへの侵攻を繰り返し、それに対し、北イタリア諸都市は同盟を結成し抵抗した。また、(8)〔①キエフ ②ノルマンディー ③ウェセックス ④ウェールズ〕を先祖の故地とする戦士たちが中心となり遠征して建国していたシチリア王国にも関心を示し、この王国と姻戚関係を築いた。

(4) 朝の滅亡後、皇帝位については、13世紀後半に「大空位時代」が起こるなど、混迷の時代を迎えた。そうした中、14世紀に皇帝選出の仕組みを整えようとしたのが、(9)〔①ベオグラード ②ブダペスト ③ソフィア ④プラハ〕大学の創設に尽力しこの都市の発展に貢献したことでも知られるカール4世である。皇帝を選挙で選ぶという仕組みは以前から存在したが、カール4世は金印勅書を発布し、(10)〔①五 ②六 ③七 ④八〕選帝侯による皇帝選挙制を法的に確定した。以後、選帝侯の継承や選帝侯の支持の獲得という問題が歴史の中で話題となり重要な要素となっていく度合いも増えていくことになる。

B 中国近代における政治思想の歴史において、マルクス主義の受容は大変重要な意義を持っているが、その受容に貢献した人物として知られるのが李大釗である。

李大釗は1889年に河北省の楽亭県に生まれた。青年期は北洋法政専門学堂で学んでいる。この学校は、のちに中華民国臨時大總統に就任する(1)〔①梁啓超 ②李鴻章 ③溥儀 ④袁世凱〕が設立にかかわった教育機関であった。李大釗はその後、日本に留学した。日本は1915年に、中国に対して山東の(2)〔①イギリス ②ドイツ ③フランス ④ロシア〕権益の継承などを含む二十一カ条の要求を突きつけ、(1)はそれに抵抗するも、日本の軍事的な圧力のもとで大半を承認することとなった。当時日本に留学していた李大釗は、二十一カ条の要求への反対運動を展開し、1916年に帰国した。

帰国後、李大釗は北京大学図書館主任に任命され、またのちに北京大学教授に任命された。当時中国では、『新青年』の刊行に見られるように、辛亥革命後の政治的混迷に対して、根本的な社会変革を目指す(3)〔①プロレタリア文化大革命 ②洋務運動 ③五・三〇運動 ④新文化運動〕が展開されていた。李大釗も北京大学にてこの潮流に積極的にかかわることになる。1917年にボリシェヴィキの指導者(4)〔①ケレンスキー ②レーニン ③ムラヴィヨフ ④プーシキン〕がおこしたロシア十月革命の影響をうけた李大釗は、この革命を高く評価し、中国におけるマルクス主義受容を先導していった。李大釗のマルクス主義受容は、主に日本の社会主義者の著作を通して行われたとされる。なお、のちの1949年に中華人民共和国の主席となる(5)〔①鄧小平 ②周恩来 ③林彪 ④毛沢東〕は、李大釗のもとで北京大学図書館の司書補を担当していた。

1919年には、パリ講和会議の内容に対する不満から五・四運動がおこり、中国が(6)〔①黃埔条約 ②北京条約 ③ヴェルサイユ条約 ④ローザンヌ条約〕調印を拒否する事態に至るが、李大釗はこの五・四運動にも積極的にかかわった。一方、(3)に参加した知識人の中には、李大釗のようなマルクス主義を信奉する潮流に対し、批判的な見解を有する者もいた。その代表的な知識人の一人は、白話文学を唱えて文学革命の口火を切った(7)〔①魯迅 ②康有為 ③胡適 ④劉永福〕であった。(7)はプラグマティズムの観点から、李大釗のような「主義」

を信奉するあり方を批判した。なお(7)は、アメリカに留学し、プラグマティズムの提唱者として知られる(8)〔①マックス＝ヴェーバー ②デューイ ③フロイト ④サイード〕のもとで学んだ経験があった。

1920年、李大釗は北京大学にマルクス学説研究会を組織した。また彼は、(4)がモスクワに設立した各国の共産主義政党による国際組織(9)〔①コメコン ②コミンテルン ③コミンフォルム ④コルホーズ〕の代表者と面会し、『新青年』の創刊者で(3)を主導した陳独秀とともに、中国共産党の成立にむけて尽力している。

1919年に中国国民党を成立させた孫文は、その後、(9)からの顧問を受けいれて「連ソ・容共・扶助工農」の方針を取り、中国共産党員が共産党籍を残したまま国民党に入党することを認めるいわゆる第1次国共合作を行った。李大釗は孫文に協力し、国共合作に積極的にかかわった。彼は、国共合作下の国民革命の過程において、北京で中国北方にかかわる業務を担っていたが、1927年、中国の東北地方を拠点とする(10)〔①直隸 ②安徽 ③山西 ④奉天〕派の張作霖によって逮捕され刑死した。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問(1)～(8)に答えなさい。〔解答用紙記述〕(18点)

近代的ナショナリズムに根ざした思想と運動が東南アジアで最初に登場したのは、スペイン支配下のフィリピンにおいてであった。19世紀末になると、スペインに在住するフィリピン人中産層・知識人（留学生や植民地から追われた政治的亡命者など）の間で祖国の改革のための啓蒙運動が広がった。彼らはマドリードで『ラ＝ソリダリダード』という雑誌を1889年から刊行し、改革を呼びかけた。この運動はプロパガンダ運動と呼ばれる。

しかし、マニラに在住するボニファシオは、こうした穏健な改革運動に飽き足らず、より急進的な改革を目指して秘密結社を組織した。この組織はマニラの労働者や下層階級の間で急速に支持者を獲得し、1896年には、マニラの北方で武装蜂起を開始した。フィリピン革命の開始である。しかし、ボニファシオは、革命の指導権をめぐってプリンシパリアと呼ばれる地方有力者層を代表するアギナルドと対立を深め、翌年には後者の組織する革命政府により逮捕・処刑されるに至った。しかし、その後、植民地政府軍の攻撃を受け劣勢に立たされると、アギナルドは徹底抗戦を避けてスペイン側と和議を結び、香港に亡命する道を選んだ。

1898年4月、アメリカがスペインに宣戦布告すると（米西戦争）、香港に亡命したアギナルドらはこれを独立運動再開の好機ととらえて帰国し、アメリカ側に接近した。アメリカ側も当初、革命派を反スペイン勢力として利用しようとした。その後、アメリカは8月に単独でマニラ入城を果たし、革命派抜きでスペインとの講和交渉を開始した。この頃すでに革命派を利用する必要性が薄れていたのである。革命派の側ではなおも新たな支配者として登場したアメリカとの交渉を模索し、かつ使者を送りスペイン・アメリカ間講和交渉に参画しようとしたが成功しなかった。さらには、同年12月10日には、アメリカ・スペイン間でパリ協定が締結され、アメリカによるフィリピン領有という結果に帰着した。フィリピン併合をめぐって、アメリカの世論の中には独立宣言の精神に反するとの反対論もあったが、アメリカは未開のフィリピン人を文明化するという神から与えられた使命を持ち、かつ極東の軍事基地としてフィリピンは有用であるといった主張が競り勝ち、急速に併合論へと収斂していった。

こうした状況に抗するために、アギナルドは1899年1月23日、フィリピン共和国の樹立を宣言したが、アメリカとの対決は目前に迫っていた。同年2月4日にはアギナルド率いる共和国軍と後に連合軍最高司令官として日本に君臨することになるダグラス＝マッカーサーの父アーサー＝マッカーサー率いるフィリピン派遣軍との間で戦闘が開始した（フィリピン＝アメリカ戦争）。圧倒的な軍事力を擁するアメリカ軍に敗北を重ねていた共和国軍が期待したのは、日本からの軍事支援であった。アギナルドは1898年6月から腹心のボンセらを日本に送り込み、政界要人や陸軍参謀本部と接触させ、武器支援を引き出そうとした。その試みは一部成功し、1899年7月、武器・弾薬、日本人志士たちを載せた布引丸が長崎からフィリピンに向かったが、暴風雨のため沈没し、革命政府に武器が届くことはなかった。この事件を通じて日本の陸軍の関与を知ったアメリカは、参謀本部らによるフィリピン革命への関与を強く非難し、フィリピンに対する不干渉政策の徹底を求めた。こうした方針は、1905年7月に来日したアメリカ陸軍長官と日本の桂太郎首相との間で交わされた、日本はアメリカのフィリピン統治を承認するとともにアメリカは韓国に対する日本の優越的支配を承認するとする秘密覚書にも反映された。すなわち日本にとってフィリピン革命の経験は大きな意味を持ったのであり、その後、少なくともアジア太平洋戦争期に至るまで、日本の政界・軍の関心は主として満蒙と朝鮮に向けられ、フィリピンは政治・軍事的な南進の基点というよりは、もっぱら移民・経済開発の対象地として位置づけられるようになったのである。

〔設問〕

- (1) 下線部(1)について、『われに触れるな』を著すなどの活発な言論活動を通じてフィリピン人の民族意識を高めるのに貢献した人物の名を答えなさい。
- (2) 下線部(2)について、ボニファシオが組織したこの結社の名称を答えなさい。
- (3) 下線部(3)について、この戦争の原因となったのはスペインのある植民地で起った独立運動であった。この植民地の名称を答えなさい。

- (4) 下線部(4)について、同様の論理は19世紀半ばのアメリカ合衆国の西漸運動においても見られた。それを典型的に示すスローガンを答えなさい。
- (5) 下線部(5)について、この共和国にはルソン中部のある町に設けた首都の名にちなんだもう一つの名称がある。この名称を答えなさい。
- (6) 下線部(6)について、ポンセは、1894年にハワイで革命団体を結成し、清朝打倒の革命運動を展開していたある人物とも横浜で接触している。この革命団体の名を答えなさい。
- (7) 下線部(7)について、この陸軍長官は、パナマ運河建設計画を推進したことで知られ、1909年には、アメリカ合衆国第27代大統領に就任した。
- a. この人物の名前を答えなさい。
- b. この人物が大統領時代に海外投資を促進させ、政治的・経済的影響力の増大を図ろうとした政策の名称を答えなさい。
- (8) 下線部(8)について、アメリカの植民地となったフィリピンでは、ダバオを中心に日本人の移民が盛んに行われた。それを促したのは、20世紀初頭に導入されたある商品作物栽培であった。船舶用ロープ材の原料などとして盛んにアメリカに輸出されたこの商品の名称を答えなさい。

Ⅳ 以下の各文章1～4にはそれぞれ明白な誤りが一つずつ含まれている。誤りの語句を解答用紙の所定のA欄に、それに替わるべき正しい語句をB欄に記入しなさい。また各文章1～4に付された設問(1)～(4)の答えを解答用紙の所定の欄に記入しなさい。〔解答用紙記述〕(16点)

1. ペロポネソス半島南部に位置するスパルタは、先住民を征服したドーリア人によって建設された。ギリシア最強の陸軍を持つと言われ、アテネと並んで領土の大きなポリスであったが、市民は1万人たらずだった。市民よりもはるかに多くの、農業に従事する奴隷身分のヘイロータイヤ、貢納や従軍の義務はあるが参政権はなく、商工業に従事するペリオイコイがいた。伝説的な指導者クレイステネスが先住民支配のため、共同食事などの改革を実行し、その軍国主義的な国制を定めたとされる。

設問(1) 法律を成文化し、貴族による恣意的な刑罰を禁止して秩序の安定をはかった前7世紀後半のアテネの立法者の名前を答えなさい。

2. ソ連の映画監督エイゼンシュテインの代表作の一つに、『イヴァン雷帝』がある。15世紀後半、モスクワ大公国の大公イヴァン3世は「タタールのくびき」から脱し、ビザンツ帝国の最後の皇帝の姪と結婚してツァーリの称号を名乗った。雷帝とあだ名されたイヴァン4世は、その孫である。彼は農奴制を強化し、大貴族を抑えて、皇帝に権力を集中する体制を確立しようとした。東方ではカスピ海に注ぐドニエプル川の流域に進出して、ジョチ＝ウルスから分裂したカザン＝ハン国やアストラハン＝ハン国を征服した。西方ではスウェーデンやポーランドと覇を争った。彼は猜疑心が強く、流血を好み、狂気じみた暴虐で知られている。ノヴゴロド市の内通を疑って大虐殺を行ったのはその最たる例である。この皇帝の権力獲得までの道筋を描く『イヴァン雷帝』の第1部はスターリンに絶賛された。だが、貴族たちへの血の粛清を扱う第2部は激しい不興を買い、計画されていた第3部はついに実現しなかった。

設問(2) 16世紀後半、富商ストロガノフ家に雇われてロシアのシベリア進出の尖兵となり、シビル＝ハン国に侵攻したコサックの首領の名を答えなさい。

3. 明末の中国の政界は、東林派と非東林派の「党争」や魏忠賢らの宦官の横暴などによって混乱を極めていたとされる。それに対し、女真ではヌルハチが統一に成功し、1616年に国号を清として勢力を伸長させていた。とはいえ、彼は後に明に替わる王朝の「太祖」とされたものの、自らの手で明を打倒したわけではなく、1626年の寧遠の戦いで袁崇煥率いる明軍に敗れ、同年に死去している。なお、当時の明軍は「紅夷大砲（ポルトガル式の大砲）」によって敵軍に大きな被害を与えたとされる。その後を継いだ息子のホンタイジ（太宗）も結局明を倒して首都の北京に入ることはできず、明朝最後の皇帝である崇禎帝が自殺した直接の要因は、李自成の反乱軍が首都に入ったためであった。

設問(3) 明の滅亡後、もとは明の武将であった人物が清に協力し、北京への入城を助けた。後に三藩の乱において「周」を建国して皇帝を名乗ったこの武将は誰か、その人名を答えなさい。

4. 17世紀以降のヨーロッパでは、自然科学と哲学の方法論に大きな変革が見られた。イギリスでは、フックが顕微鏡を発明し、ニュートンは望遠鏡を駆使して観測データを集め天体の運動法則を解明した。経験論の祖とされるフランシス＝ベーコンは、実験や観察を重視して個々の事実の集まりから一般法則を導く帰納法を重視した。一方、フランスでは、ラプラスは星雲説を発展させて太陽系の成立過程を理論化し、宇宙進化論をとらえた。哲学者パスカルは、前提を立てそこから論理的に結論を導く演繹法を確立して、大陸合理論の流れを作り、「我思う、ゆえに我あり」の言葉で知られる。

設問(4) 気体の圧力と体積の関係を解明し、気体力学の基礎を確立したイギリスの化学者・物理学者の名を答えなさい。

V 次の文章を読み、下記の設問(1)～(13)に答えなさい。〔解答用紙 記述〕 (26点)

現在、世界各地で生じている地域紛争や社会問題の多くは、ヨーロッパ史と深い関連をもっている。

たとえば、こんにちのパレスチナ紛争の発端は、19世紀末以降、ユダヤ人の一部が民族の「故郷」パレスチナに帰還しようとし、⁽¹⁾ 当地のアラブ系住民と対立を深めたことであるが、このような帰還運動の背景には、ヨーロッパにおける、何世紀にもわたるユダヤ人への差別・迫害があった。8世紀以降イベリア半島を征服したイスラム諸王朝の下ではユダヤ人は比較的寛大に扱われていた。しかし、15世紀末、⁽²⁾ キリスト教勢力による半島の「再征服」が完了すると、ユダヤ人は改宗や半島外への移住を余儀なくされた。他方、中世に成立したポーランド王国は、⁽³⁾ 経済的理由により、ユダヤ人に対する寛容政策を採ったため、ユダヤ人が集まり、ヨーロッパにおけるユダヤ人の人口・文化的な中心地域となった。この状況は18世紀半ば以降、ポーランドが周辺諸国によって分割されて以降も変わらなかったが、⁽⁴⁾ 19世紀以降、世俗化、ナショナリズム、産業革命の波及といった大きな社会変化の中で、東欧・ロシア地域でもユダヤ人に対する迫害が激化していった。⁽⁵⁾ こうした状況が、19世紀後半以降、ユダヤ人がパレスチナをはじめ、ヨーロッパ外の地域へ移住した一因であった。⁽⁶⁾

また、ヨーロッパ諸国による非欧州地域の植民地化や、大規模な奴隷貿易・奴隷制の展開も、植民地化された地域の深刻な社会的不平等や貧困、奴隷制が導入されたアメリカ大陸における深刻な人種差別問題の原因を作った。たとえば、19世紀の間に、奴隷制は徐々に廃止されていったが、⁽⁷⁾ 多くの場合、廃止に際しては、奴隷解放の代償として、旧奴隷所有者層への重い賠償金支払いが課せられた。⁽⁸⁾ そのことが、旧植民地諸国の経済発展を妨げたとして、近年では逆に、これらの国々から旧宗主国に対して賠償請求が出されるに至っている。⁽⁹⁾ また、植民地化の過程で、先住民の迫害・虐殺・強制移住が行われた例も多く、これらの行為に対する謝罪や賠償請求も近年盛んになっている。⁽¹⁰⁾

人種差別は、19世紀から20世紀にかけて多くの災厄を生み出してきたが、⁽¹¹⁾ 20世紀後半に入っても、様々な国の政策において陰に陽に認められていた。⁽¹²⁾ そして1990年

代に南アフリカの人種隔離・差別政策⁽¹³⁾が撤廃され、公に人種差別を是認する政策が国際世論的に実施困難になって以降も、人種差別は排外主義などと結びついて隠然たる力を保っている。

〔設問〕

(1) 下線部(1)について、パレスチナでのユダヤ人国家建設をめざす運動の名を答えなさい。

(2) 下線部(2)について、8世紀半ばにイベリア半島で建国されたイスラム王朝の名を答えなさい。その王家は、かつてシリアのダマスカスを首都としたイスラム王朝の血を引いている。

(3) 下線部(3)について、イベリア半島からアムステルダムに移住したユダヤ人家系の出身で、『エチカ』などの著書がある哲学者の名を答えなさい。

(4) 下線部(4)について、ポーランド分割には3つの国が参加したが、3度実施された分割のうち、フランス革命の影響により、第2回分割には参加しなかった国の名を答えなさい。

(5) 下線部(5)について、下線部(1)の運動の直接の発端は、19世紀末のフランスで生じた、ユダヤ人将校の冤罪事件が、ヨーロッパにおけるユダヤ人差別の根深さを明らかにしたことであった。この将校の名を答えなさい。

(6) 下線部(6)について、19世紀後半から1920年代に移民制限を行うようになるまで、ユダヤ人の最大の移住先となった国名を答えなさい。

(7) 下線部(7)について、1888年、南北アメリカで最後に奴隷制を廃止した国名を答えなさい。

- (8) 下線部(8)について、旧フランス植民地で、フランス革命を契機に1804年に独立したものの、フランスに巨額の賠償金の支払いを余儀なくされた国名を答えなさい。
- (9) 下線部(9)について、カリブ海地域にかつて多くの植民地を持ち、近年、ジャマイカなど旧植民地国から賠償請求を突き付けられているヨーロッパの国の名を答えなさい。
- (10) 下線部(10)について、18世紀にイギリスのクック船長が上陸し、19世紀半ば、イギリス系入植者と先住民、双方の権利を尊重するためのワイタング条約が結ばれたが、近年この条約の解釈を巡って国論が揺れている国の名を答えなさい。
- (11) 下線部(11)について、19世紀末から第一次世界大戦期にかけてナミビアはヨーロッパの一国の植民地となり、その過程で先住民の虐殺が行われた。ナミビアが現在、過去の虐殺について賠償請求を行っているこの国の名を答えなさい。
- (12) 下線部(12)について、アメリカ合衆国では、1950年代になっても一部の州では人種差別が根強く残っていた。1957年、ある州のリトルロックという町では、黒人生徒の州立高校への入学が拒まれ、州政府と連邦政府が対立する事態が生じた。この対立が生じた州の名を答えなさい。
- (13) 下線部(13)について、南アフリカで行われていた、この人種隔離・差別政策の名をカタカナで答えなさい。